子ども会（学習会）だより
MY SKY No.12
マイ・スカイ
1997年７月８日火曜日発行（毎週火曜日きまぐれ発行）

発行者
板野中学校
学習会
編集・文責：吉成正士

男子剣道部 郡総体優勝おめでとう！！

今月４日から６日にかけて，３年生として最後の公式戦である総合体育大会の板野郡大会が行われました。みんな一生懸命だったようですね。結果はともあれ，その一生懸命さが大切なんでしょうね。きっとこれからの人生にプラスとなるはずです。またそうでなければ，今まで一生懸命してきた意味が薄れるというものです。これからの生活に，人生に，生かしていきましょうね。また，県大会に出場できる男子剣道部，女子バスケット部，野球部のみなさん，残念ながら願い叶わなかった同じ板中の仲間の分も，頑張ってきてくださいね！また，みんなも応援しようね！！

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

☆ 部落問題意見発表板野郡代表原稿と県中（７月12日13:30～；板野中学校会議室）

前回予告していたように，部落問題意見発表会で見事板野郡の代表に選ばれた原稿を読んでもらおうと思います。

信じ合える仲間と共に

上板中学校３年女子

「お前の家は，同和地区だろ」こんな電話が，ある学校の学習会に通っている子の家にかかってきました。私はこの電話を聞いたとき，すごくつらい気持ちになりました。なぜなら，私も学習会に通っているからです。その子はすごくつらそうでした。同時に私もすごくつらい気持ちになりました。その子の心の痛みが，私にはよくわかるからです。自分の仲間が，こんなにつらくて悲しい思いをしてると思うと，悔しくて，電話をかけた人のことがとても許せませんでした。その反面，「私の家にもそんな電話がかかってきたら」と，不安の気持ちでいっぱいでした。でもその子は，その話をしているときでも「僕は差別には負けない」という表情で，真剣に話をしてくれました。私はその表情に，すごく励まされたような気がします。

この話は，学習会に参加している子が集まった，徳島県部落解放学習会中学生集会で聞いたものです。１年生のとき，２年生のときと２回この会に参加して，私は得したことや思ったことがあります。

まず一つめは，一人ひとりが自分なりの気持ちをきちんと持っていることです。本当にみんなすごいと思いました。みんな同じように差別に対する怒りや憤りを持っていて，一人ひとりの思いが私に伝わってきました。

二つめは，みんなが「差別には絶対負けない」という強い気持ちを持っていることです。みんながその気持ちで，中学生集会に参加していました。人一倍，その気持ちを強く持っているみんなを，私は同じ学習会に通っている一人として，その仲間がたくましく，また誇らしく思えました。

私も部落差別には負けたくありません。今の差別は，見えにくくなってきています。しかし，社会では私たちの目の届かないところで，部落差別は起こっています。そして，部落差別を受け，苦しんでいる人たちがたくさんいるのです。私はそういう人たちを見捨てることはできません。だから私は，その人たちを守ります。そのためにも，今の私にできることは何だろうかと考えてみると，まず一つは，学校や校内での同和問題学習を，今まで以上に取り組んで，みんなに私の思いを語って，わかってもらうことです。自分の思いも語らないで差別をなくそうという考えは，あまいと思います。自分の思いを語ることで，差別をなくすことに，少しでも近づくと思います。

もう一つは，中学生集会のように，仲間の輪を広げ，強くつながっていくことです。他の学校では，学習会への出席率が低いということを聞きました。ただでさえ差別をなくそうという人たちが少ないのに，差別の一番近くにいる私たちが，差別をなくすためにがんばらなくて，どうしますか。私たちの力で，少しでも差別をなくしていかなくては，自分たちの子どもに，自分たちと同じつらい気持ちをさせることになります。みなさんはそれでもいいですか。私は絶対にいやです。だから自分にできることは，精一杯やります。私たちががんばることで，部落解放という大きな光が，ひとすじ見えてくるでしょう。このように，差別に対する怒りや思いをぶつけ合うことや，みんなで真剣に部落差別をなくすための運動をすることで，部落差別という厚い壁は，壊すことができると信じています。いえ，絶対壊すことができるでしょう。人間が作った差別，人間である私たちが，力を合わせてなくしていきましょう。差別のない明るい未来を築きましょう。そして，二度と差別が出てこないように，自分の気持ちをしっかり維持していきましょう。

私はがんばります。差別がある限り，自分にできることはがんばっていきます。そして，学習会に通っている仲間や，私と同じ気持ちでいる友達と一緒に，部落差別に立ち向かっていきます。

信じ合える仲間がいる限り。

読んでわかったと思いますが，この内容は，昨年板中であったことですよね。差別電話を受けたこの卒業生は，どこに行っても，堂々とこのことを語りきりました。そして語るたびに，強くなっていったように感じます。またこの輪は，県中という場を通してさらに広がっていきました。学校という枠を越えて中学生のみなさんの心を揺さぶっていったのです。同世代でつながっておくことは，きっとこれから先の学生生活に，大きな自信となって私たちに影響を及ぼすことでしょう。

そんな県中が，今年も８月に行われます。その準備会が，今週土曜日に下記の日程で行われます。学習会参加者は是非とも参加し，他校の多くの仲間と交流してみましょう！

集合!!「第２回部落解放徳島県学習会中学生集会」第１回実行委員会

と　き；７月12日(土)１３:３０　ところ；板野中学校大会議室

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

お便りコーナー

『ナムヌの家』という映画を覚えてるでしょうか？旧日本軍に従軍慰安婦として働かされていた韓国女性の戦後の生き様を描いたドキュメンタリー映画です。昨年の徳島大学祭で上映されたのですが，このMY SKYでも紹介をしたので主催者に手紙を書いたところ，お返事が帰ってきました。どうぞ。

前　略

お元気で活躍されていることと思います。先日はマイスカイを送っていただき，ありがとうございました。板野中学校の「同和」教育の取り組みにはいつも大変学ぶものがあります。１ページずつの重みを感じながら読ませていただきました。そして私たちがご案内させていただいた企画を丁寧に取り上げていただいたんだなと，関係者一同とても喜んでいます。

実は，映画上映の際に，見に来てくださった方々がとても貴重な意見・感想を残していってくださったので，これは私たちだけが見るのではなく，みなさんと共有化しなければいけないと思いまして，報告集を作成したんです。ところが財政上の都合などもありまして，まだほとんど発送できていない状況だったんです。板野中学からも生徒さんと先生が来てくださったので，早く送るべきでしたのに，大変失礼いたしました。遅ればせながらなんですが，報告集を送付させていただきます。お手数ですが，見に来ていただいた方々にも渡していただければ幸いです。

また全体学習の際には，ぜひ勉強させていもらいたいので，お手数ですが連絡いただけるでしょうか。ぜひお願いします。

狭山第二次再審闘争もいよいよ正念場です。高木裁判長が７月に交代するらしいので６月にも「決定」がでるという状況ですが，今のところ事実調べもする様子がなく，またしても棄却をねらっているのではないかという厳しい状況です。私たちもこれ以上，石川さんに対して差別「有罪」判決をおろさせないぞという決意で新歓企画でも狭山に取り組んできました。

この新歓企画の展示の勧誘のときにも感じたのですが，やはり高校までの「同和」教育がどうだったのかで，学生の関心の度合いが全然違います。もっといえば予備校と化している高校では，ほとんど「同和」教育は形ばかり，あるいは時間数が少なすぎてあまり役立っていないようです。やはり中学の「同和」教育が一人一人の学生にとって自分のものにできるかできないかの大事な場になっているように思います。広島出身の学生たちが，「もう十分にやったからいい」というのを何回も聞きました。本当に「十分やった」のなら「もういい」のではなく「もっともっとがんばらなければ」と思うはずです。また，狭山の説明を熱心に聞いてくれた学生が，ある部落の人たちに対してとても偏見を持っていたというようなことも聞きました。とにかく徳大では「同和」教育がありませんので，学生のこういう現状は放っておけば悪くなるだけです。私たちが粘り強く働きかけていくしかないとますます責任を強く感じています。

それではお体に気をつけて，生徒のみなさんたちとがんばってください。

また，もし徳大に来る機会がありましたら，ぜひ部屋の方へお越しください。

失礼します。

１９９７年５月２１日　　徳島大学部落解放研究会，徳島大学新聞会一同

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

♪♯ ひとり・ゴッ ♪♭

全然違った話になるのですが，ちょっと前，今話題になっている『もののけ姫』の試写会に行ってきました。アニメ，漫画とバカにしてはいけませんゾッ。自然を描く映像の出来映えのすごさには，ただただ圧倒されるばかりでした。奥深い山を流れる雲海，しっとりと苔むした森，そして豊かな創造性が作り出す世界。それにもまして心に染み込んできたのは，現代の私たちに警笛をならすべく描かれたメッセージ。その中に，人間が本当に進むべき道が示されているような気がしました。絵空事と

思わず，真剣に考えたいものです。

今週水曜日の昼から金曜日にかけて，四国同和教育研究大会(愛媛県松山市)に行ってきます。阿部先生，柿原先生，三木先生，瀬川先生，森口先生と６人で勉強漬けになってきます。帰ってきてから，機会をみていろんな話をしてもらってくださいね。

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆☆ ★★★ ☆☆ ★

７月10日(木)・11日(金) 四国同和教育研究大会(愛媛県)
12日(土) 「第2回徳島県部落解放学習会中学生集会」第１回実行委員会(13:30～；板野中学校会議室)
15日(火) 板野町同和教育研究大会「就学前部会」(板野わかば保育園)
19日(土) 終業式
20日(日)～25日(金) 徳島県中学校総合体育大会
８月７日(木) 第２回徳島県部落解放学習会中学生集会(徳島県青少年センター)
９日(土)～10日(日) 板中学習会県内一泊研修会(土柱自然休養村センター)
18日(月)～19日(火) 徳島県解放子ども会一泊研修(牟岐少年自然の家)
28日(木)～29日(金) 板中学習会県外視察・交流会(羽曳野中学校，大阪人権博物館)

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

校内部落問題意見発表会（97. 6. 16）

1997年度板野郡中学校同和問題意見発表会
(97. 6. 23)

和田武広講演会
『二度とない人生だから⑧』
最終回

高校一年生になった長男が、昨年の中学三年生の時、人権作文を書いて、全国の法務省のコンクールで優秀賞に選ばれたんです。私はその作文を読んで、本当に嬉しかったです。親バカみたいな話をしますが、「自分たちの気持ちが子どもたちにもわかってくれたんだ」と思ったわけです。その一部を読んでみます。

「僕が住んでいるところは同和地区だが、他の人たちとは何の違いもないし、同じ人間、同じように幸せに暮らしたいと考えている。たまたまここに生まれたという理由で差別されるのは絶対おかしい。こんな不合理なことはない。今まで差別に立ち向かってきた、温かさに満ちあふれた故郷に誇りをもって生きていきたい。また、堂々と自分が生まれた故郷を、みんなの前で名乗れる人間になりたい。

人は神さまが作ってくれたものだからどうすることもできないが、差別は人が作ったものだから、必ず僕たちの力でなくすことができる。差別がこの世からなくなるように、みんなで力を合わせて解決していきたい。また、自分自身、差別を許さず差別と闘っていける人間、みんなの幸せを考えていける人間になりたい」

このように作文で、長男が決意を述べてくれました。この中に、「人は神さまが作ってくれたものだからどうしようもないが、差別は人が作ったものだ」ということを、長男が言っております。これは私が常々言ってる言葉です。いや、私が言ってるんじゃなくって、「橋のない川」を書いた、住井すゑさん、90歳を越えてもなお矍鑠として差別と立ち向かっている、「橋のない川」の原作者の住井すゑさんがいつもこういうことを言ってます。

「物事には、天の法則と、人為というものがある。大自然とか大宇宙とか、そういったものは人間が作ったものじゃない。これは天が作ったもの。あるいは宇宙が作ったもの。場合によれば、神さまを信じてる方は、神が作ったもの。こういうふうに言っていいと思います。それは、変えようがないんです。そういう大自然とか宇宙の法則や、地球がグルグル回っているのを止めることは、人間ができるわけないですね。

でも差別というものは、人が作ったものじゃないですか。人が作ったのならば、人の力で必ずなくすことができるじゃないですか」

ということを、住井すゑさんがいつも申しております。

私自身も自分自身の体験で、本当に思います。冒頭言いましたように、私は結婚で最初に彼女と別れる選択をした時までは、非常に差別心のある、偏見に満ちた、そして非常に弱い人間でした。しかし少なくとも今は、「差別を絶対許すもんか」「差別をなくしてみせるんだ」という差別と闘う立場の人間に変わろうとしております。人間は必ず変われるもんだと思っております。

最後になりますが、みなさん方のレジメの1ページの左側に、資料一がございます。これは、今から17年前に二人が結婚式を挙げたときに、自分たちの気持ちを結婚式に参加した人に、メッセージとして託したものです。これを読んで終わりにしたいと思います。

「いわゆる世間と闘って

『差別はいけない。しかし世間はそんなにあまくない。世間が悪いから仕方がないんだ』

私たち二人の結婚に対して、私の家族が終始一貫して主張した、いわゆる差別の論理である。自らの差別行為を、世間という実態なきものに見事に責任転嫁することによって、自らの行為を正当化しようとするものである。そしてこの論理が更に発展すると、自分たちは差別などしたくないのだが、そうしないと世間から迫害を受ける。自分たちこそ部落差別の被害者である。したがってそのような現実をまねいた私と彼女こそが加害者なんだという恐るべき論理へと飛躍をしてくる。こうした論理が全く本末転倒であるということは、言うまでもない。その世間とは誰でもない自分自身なのだから。

ところがそんな誤った論理が、大手を振ってまかり通るところに、部落問題の深刻さがあるのだと思う。かくいう私もまた、一度はその過ちを犯した一人である。幸いにも私は、早期にその誤りに気がつき、人として生きる道を踏み外さずにすんだが、残念ながら私の家族らは、未だその誤りから脱却し得ないでいる。私はたとえ茨の道であろうとも、一日も早く私の家族の誤りを正し、人が人を信じ合い、いたわり合う、真の人間尊重の道を歩ませるのが、私の肉親としての務めであり、今後私の歩むべき道であると信じて疑わないものであります。

和田武広」

どうもご静聴ありがとうございました。

おわり